「ローカル５Ｇ」の開発テストセンター建設
沼田町工業団地で豪雪・寒冷地の適応検査

通信機器メーカー「ハイテクインター」

【沼田】町内に北海道事業所を構える情報通信機器メーカー「ハイテクインター」（本社・東京）は、町内北竜の工業団地内に、高速通信規格「５Ｇ」の地域限定版「ローカル５Ｇ」のプラットフォーム開発や検証テストを行う「北海道開発テストセンター」（仮称）を建設し、年内にも稼働を始める。屋外設置型の産業用通信機器を手がける同社の旦尾紀人社長は「雪深い土地でフィールドテストを行えるのは貴重。吹雪や寒さに適応した製品の開発に弾みがつく」と期待を込める。

同社は二〇一四年、沼田事務所を設立。道内の企業や自治体に通信機器の技術サポートを展開し、昨年十一月の町内移転に合わせ、名称を北海道事業所に変更した。神奈川県相模原市にも開発拠点を持つ。

「ローカル５Ｇ」は、通信網の本格的な整備を前に、企業や自治体などが限定エリア内で自前の５Ｇが活用できる無線システムだ。

その前段階として、同社は昨年、通信規格「４Ｇ」を利用した屋外設置型のプライベート基地局と端末を販売。広範囲で接続が良く、秘匿性に優れたシステムを安価に導入したいニーズに応え、顧客から好評を得ているという。

テストセンターの延べ床面積は六百三十四平方㍍。外構を含めた建設工事は十一月に完了し、十二月から氷点下や吹雪への耐久性など各項目に分けた評価テストに入る計画だ。

十六日に現地で開かれた地鎮祭には関係者二十人が参列。ローカル５Ｇの開発に着手する旦尾社長は「本州の企業も視察に訪れる施設になる。地域経済の維持・拡大に貢献したい」と述べ、横山茂町長は「情報通信技術はこれからの事業に欠かせない分野。町として応援したい」と激励した。

工事の安全を願い、くわを入れる旦尾社長

北空知周

『北海道詩集』１９６
和四十四年）版掲載の、
「歯への挽歌」は、「
になって／私の歯の枯
いう書き出しである。
粗末にあつかったわが
む」といい、その歯も
きすてられる」と綴る。
歯に対する、哀惜の
であるが、「あの黒い
もをかじり／とうきび
実をかみつぶし／氷の
りながら／雪道を歩い
／口で綱引きをしたり

枚を深小にプレゼント

北空知新聞　2021年3月24日（水）